二〇一九年三月二七日（参加者一二名）

八重椿十余の塔を覆ひけり　たか子
青き踏む草の名問ひつうべなひつ　たか子
ぽんぽん舟来れば手をふる花堤　たか子
奥宮にわが春愁をうべなはん　たか子
広庭に趣味の奇岩や春館　たか子
四つ目垣はみだしたわわ花馬酔木　たか子
異な虫の浮沈してをる春の池　せいじ
おどけ顔なる石人へ椿落つ　せいじ
と見かう見して画架立つる花堤　せいじ
草萌に白亜のグリンチャペルかな　せいじ
亡き夫に似し人の行く花堤　きづな
転舵して岸へ寄せたる花見船　きづな
草萌ゆる苑の小径に丁目石　菜々
八方に高層ビルや花堤　菜々
大川を楽ならしゆく花見舟　はく子
青空へ舞ひ翔たんとす花こぶし　はく子
ゆつたりと影曳く鯉や水温む　わかば
水亭の水面へなだれ雪柳　わかば
春陰の石は風神雷神と　宏虎
囀の庭を逍遥吟行す　ぽんこ
春光を背に画架立つる池塘かな　満天
縁結びてふ橋渡る春日傘　もとこ

吟行句会みのる選

二〇一九年三月二七日（参加者一二名）